

バーチャルユースセンターに関する事業報告について



埼玉県のマスコット「コバトン」



埼玉県のマスコット「さいたまっち」

埼玉県 県民生活部 青少年課

オンラインを活用したこども・若者の居場所づくりについて

こどもの居場所づくりについて



こどもの居場所づくりに関する指針

★人間は社会的な動物

人との関係の中に自分の居場所を持つことで、自己肯定感や自己有用感を得られる。
全ての人にとって「居場所」は必要不可欠な要素。

一方で…

地域コミュニティの変化

地域のつながりの希薄化、少子化の進展により、地域の中でこどもが育つことが困難になっている。

複雑かつ複合化した喫緊の課題

児童虐待の相談対応件数や不登校、自殺者数の増加など、こどもを取り巻く環境の厳しさが増している。

価値観の多様化

価値観の多様化やそれを受け入れる文化の広がりに伴い、居場所への多様なニーズが生まれている。

こども・若者の居場所づくりの緊急性と重要性が高まっており、各地域で多様なニーズに応じた多様な居場所が求められるようになっている。

* こどもの居場所づくりの対象となる居場所とは、学童期・思春期のみならず、大学生や20代の若者の居場所を含めた概念

オンラインを活用したこども・若者の居場所づくりについて

目指すべき将来像

- あらゆるこども・若者に「各人に適した多様な居場所」が身近にあり、そこで将来の夢や目標を持つなど、自己肯定感を高めている。
- こども・若者が生きづらさを感じるがあっても、気軽に他者に相談し、適切な支援により生きづらさを乗り越え、生き生きと活躍し、安心して暮らしている。

現状と課題

【現状】

- ・ 将来の夢や目標を持っている埼玉県の中学生の割合が減少傾向。^(※1)
- ・ 「こども・若者」のうち「居場所がほしい」かつ「いまは居場所がない」という答えが18.7%と、居場所に繋がっていない「こども・若者」が一定数いる。^(※2)
- ・ 約半数のこどもが社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験があり、約73.8%が誰かに相談したり支援を受けたいと思っている。^(※3)
- ・ 「こどもの居場所の数」は、こどもたちが歩いて通えるよう、公立小学校の数を目安に、令和8年度までに800か所以上設置することを目標とし、令和6年度までに826か所設置した。

【課題】

- ・ 居場所とを感じる場としてインターネット空間が多くあがっている^(※3)。
- ・ こどもはSNSやオンラインゲームなどの利用に慣れており、リアルな相談(通所、訪問)よりオンラインを活用した相談(メール、SNS)の方が気軽に相談できる。^(※4)

課題解決の方向性

- オンラインを利用して、市町村域に限定されず、こども・若者が安心して気軽に交流し、相談ができる居場所の構築。
- オンラインでの相談を入口に、適切な機関へのつなぎを行うことで、支援体制を確保する。

(参考)こどもの居場所づくりに関する指針で定める役割分担

市町村	質と量の両面からこどもの居場所づくりを計画的に推進 地域の状況把握、関係者との連携
県	市町村の取組の支援、市町村や都道府県間の連携 広域的なこどもの居場所づくりの環境整備
国	市町村及び県の取組の支援、指針の周知啓発 こどもの居場所づくりの事例収集・好事例の発信など普及促進
民間団体・機関	こどもの居場所づくりに関する指針に掲げられた理念等を踏まえ、地域の実情に応じた取組を関係者と連携しつつ実施

*1 文部科学省 R6全国学力・学習状況調査

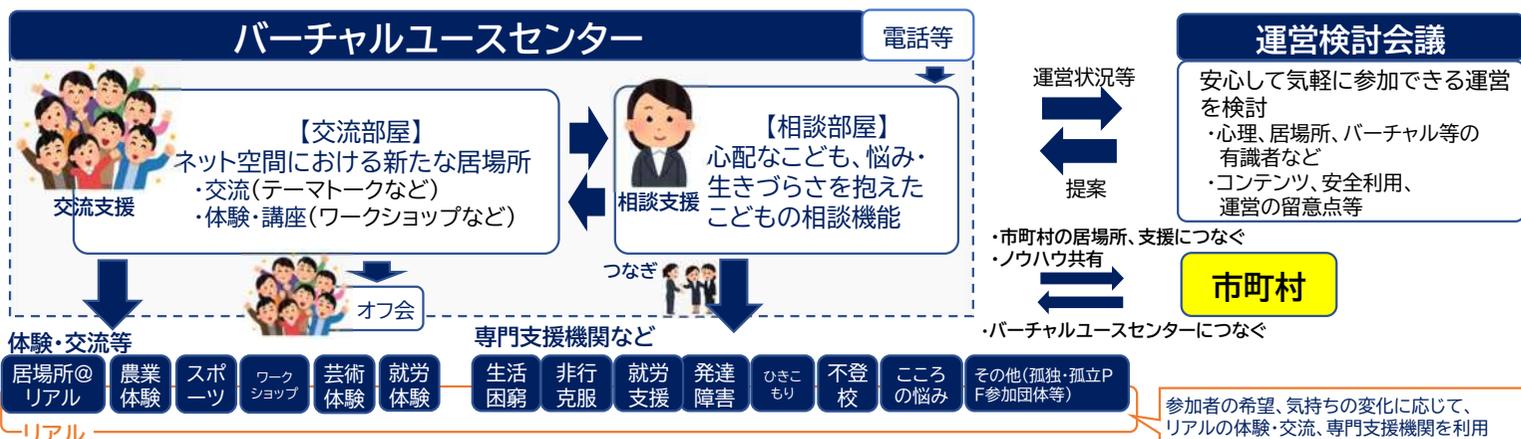
*2 内閣官房 R4こどもの居場所づくりに関する調査研究報告書

*3 内閣府 こども・若者インデックスボードver.4.0(埼玉県分)

*4 内閣府 こども・若者の意識に関する調査 2019

埼玉県バーチャルユースセンター 試行運用概要

令和6年10月～令和7年9月 … 試行(実証)運用期間 受託事業者: 認定NPO法人 さいたまユースサポートネット



検証結果

主な仮説①(交流・体験事業)

既存の取組では捉えられていない潜在的なニーズを、バーチャルを介在することで顕在化させることができる。

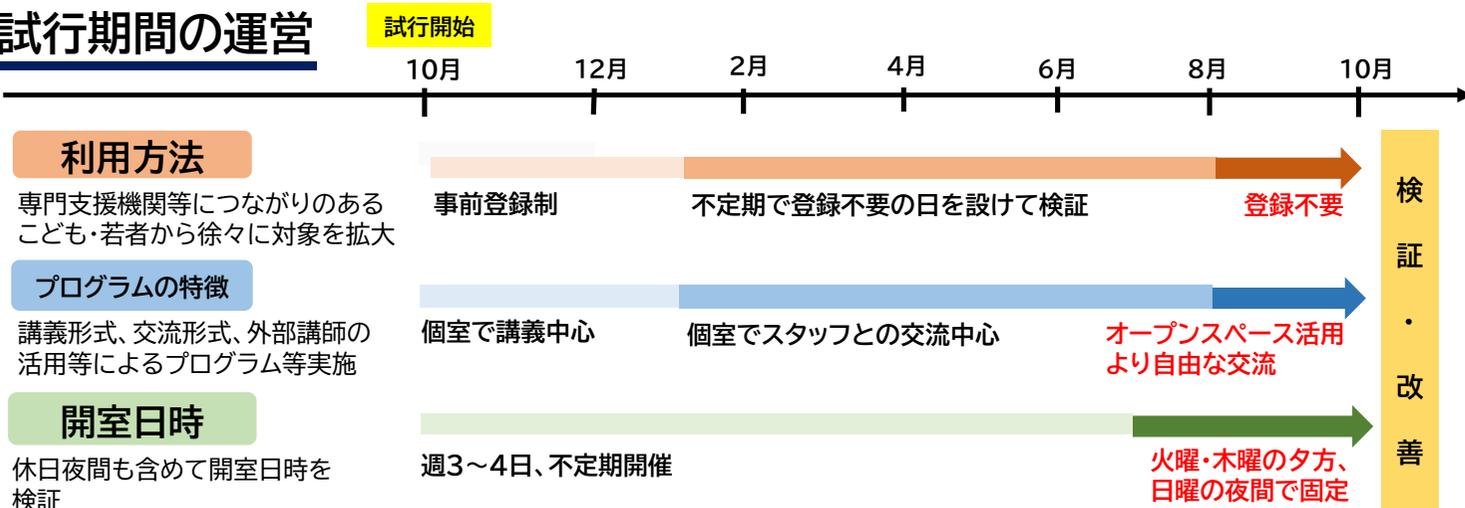
➡ 顕在化させることができる

主な仮説②(相談事業)

バーチャルでも居場所の設置により悩みの早期相談や深刻化の未然防止を図ることができる。

➡ 判断するには時期尚早(バーチャルの場合、リアルよりも信頼構築に時間を要するため)

試行期間の運営



埼玉県バーチャルユースセンター 試行運用概要

試行運用実績

開室日数	170日	内プログラム実施回数218回
延べ利用者数	699名	
外部有識者会議実施回数	8回	
利用者アンケート協力者数	1,089名	さいたまけん★こどものこえアンケート 1,019名(保護者含む)、利用者アンケート70名
動画広告 ※事業全体PR	2回	YouTube広告(R7.4.17~5.11)、Instagram広告(R7.8.14~8.19)
SNS発信数 ※活動内容	77回	事業公式Instagram 74回、県公式LINE 2回、こども応援ネットワーク埼玉Facebook 1回
訪問説明実施回数	75回	学校、不登校支援センター、リアルの居場所事業、NPO団体等
チラシ配布枚数	18,290枚	学校、不登校支援センター、リアルの居場所事業、NPO団体、福祉事務所、保健所等

利用者実績

	利用者(延べ人数)	登録者
令和6年10月	99名	21名
11月	102名	16名
12月	71名	27名
令和7年1月	41名	5名
2月	30名	23名
3月	19名	16名
4月	9名	10名
5月	45名	10名
6月	33名	11名
7月	48名	34名
8月	116名	20名
9月	86名	20名
累計	699名	213名

性別		
	男	64名
女	68名	
わからない	7名	
合計	139名	

各施設		
	さいたまユース	39名
	教育センター	24名
	その他支援機関	17名
特になし	59名	
合計	139名	

R7.6.30時点の登録者139名の内訳
 ※ 事業特性による性差が生じないこと、「特になし」の割合が増加しており、幅広い層からの登録が増えてきていることが確認できたため、R7.7.1~性別・施設利用の確認を不要とした。

年代		
	0-5歳	1名
	6-12歳	86名
	13-15歳	48名
	16-18歳	22名
	19-22歳	10名
	23-29歳	12名
30-39歳	8名	
40歳以上	26名	
合計	213名	

R7.9.30時点の登録者213名の内訳
 ※「40歳以上」では、学校教員や支援機関の職員、保護者等の登録も含む。

埼玉県バーチャルユースセンター試行運用概要

埼玉県バーチャルユースセンター運営検討会議

設置目的	埼玉県バーチャルユースセンターの運営手法を検討するため設置するもの。
開催回数	8回（令和6年6月、8月、10月、12月、令和7年2月、6月、8月、9月）

区分	令和6年度	令和7年度	備考
心理分野の学識経験者	埼玉大学・堀田香織	同左	委員長
教育分野の学識経験者	文教大学・青山鉄兵	同左	副委員長
メタバース空間に係る有識者	大日本印刷株式会社・阿部雄介	大日本印刷株式会社・鳥海洋平	
居場所づくり活動実践者	一般社団法人コンパスナビ・ブローハン聡	同左	
ユーザー関連者	さいたまん吉(県広報アンバサダー)	同左	
リアルユースセンター実施自治体	上尾市子ども家庭総合支援センター・東海林智之	上尾市こども家庭保健課・諏訪峻之	
不登校・引きこもり支援実施自治体	毛呂山町福祉課・綿貫能理子	小川町健康福祉課・利根好子	
参考事例実施自治体	さいたま市総合教育相談室・篠谷瞳	同左	

埼玉県バーチャルユースセンター本番運用概要

事業目的

- あらゆるこども・若者が誰でも気軽に利用できる居場所の設置・運営【理念】
- 居場所がなく孤独を感じる、あるいは孤立しているこども・若者がバーチャル空間での交流などを通じて、安心して気持ちを表現し、自分のことを全てさらすことなしにつながって、自分らしくいられる【主なターゲット層・目的①】
- スタッフと信頼関係を構築し、抱える困難の深刻化の予防や早期対応を図る【目的②】

目指すべき運営の形

運営形態

事業目的の達成のため、安全性を担保しつつ、自由で気軽に利用できる居場所を目指す

- ◆ 誰でも自由に気軽に入退出りができる居場所
- ◆ 目的や成果が求められない余暇活動の場や、利用者が共感や自己表現を図ることができる居場所
- ◆ スタッフとの信頼関係があり、スタッフに会いに来れる居場所

開室時間	毎週 火曜日 16:00~19:00(小学生向け) 木曜日 16:00~19:00 日曜日 19:00~21:00 ● 様々な事情を抱えた層に幅広く利用していただくため、学校が終わる夕方以降の時間帯とする。
利用方法	事前申込・事前登録不要
安全対策	スタッフが常駐し、チャットでの会話等の確認を行う ● 大人数の場合はオープンチャットを徹底することで空間内の透明性を確保する。 ● 問題行動を起こす利用者がいた場合は、事前注意の上、速やかに強制退室させることを徹底する。 ● 長時間利用とならないよう、適宜休憩の声掛けする。 スタッフや利用者間で会話を行う自由な空間（目的や成果が求められない余暇活動の場） ● 少人数の場合は外から見える場所でグループチャットを認める。
運営内容	○交流・体験事業 ● 利用者の声を基にテーマを決めたプログラムの実施（共通のテーマを基に、利用者間のコミュニケーションを促進）例：テーマトーク、好きな本の紹介等 ○相談事業 バーチャル埼玉相談室等を活用した個別相談（HPから事前予約を受け、個別相談）

埼玉県バーチャルユースセンター本番運用概要

本番運用実績

【試行運用】

	延べ利用者数	内相談件数
令和6年10月	99名	0件
11月	102名	0件
12月	71名	0件
令和7年1月	41名	0件
2月	30名	0件
3月	19名	0件
4月	9名	0件
5月	45名	0件
6月	33名	0件
7月	48名	0件
8月	116名	0件
9月	86名	0件
累計	699名	0件
平均	58.3名	0件

【本番運用】

	延べ利用者数	内相談件数
令和7年10月	278名	4件
11月	237名	10件
12月	137名	6件
令和8年1月	133名	8件
累計	785名	28件
平均	196.3名	7件

※ 10/11 こどもの居場所フェア 100名
11/ 8 見沼区ふれあいフェア 112名

※ 本番運用開始に伴い事前登録制廃止

【本番運用開始後の傾向】

- 試行運用期間から利用者数が大幅に増加。
事前登録制の廃止や本番運用開始の広報等が要因と考えられる。
- 利用者増加により活動が活性化し、利用者が定着する傾向が生まれている。
- 利用者の定着傾向に伴い、スタッフへの相談希望者が徐々に増加している。
- 事前登録制の廃止し、現時点で大きなトラブルは生じていないが、引続き安全性確保の徹底に努めていく必要がある。



一定の好循環が生まれてきているが、今後も利用状況を注視していく必要がある。

埼玉県バーチャルユースセンター本番運用概要

活動の状況(交流・プログラム)



プログラムでの共同作業により交流の深化

交流事業 オープンテラス

- ・ オープンテラスで利用者同士やスタッフで交流
- ・ 鬼ごっこ等アバターを使った遊びや会話等を行なう

交流の中で出てきた利用者の「やってみたい」をプログラムで実現

プログラム グループワークルーム

- ・ 開室時間中に1時間程度のプログラム(例:テーマトーク等)を実施
- ・ 自分たちの居場所をどうしていきたいか(イバショビルド)等の意見発信プログラムの実施

相談事業 鍵付き相談ブース等

- ・ 交流等を通じてスタッフとの関係構築が進み、個別相談へとつながる

利用者の声

交流事業

- ・ 今日もチャットに付き合ってくれてありがとうございます。楽しかったです。
- ・ 学校では友達がいらないが、ここにはわかってくれる人がいる。
- ・ 宿題が残っているので抜けるけど、またあとで来たい。
- ・ VYCがあるので火曜を楽しみにしている。
- ・ かちっとした相談や、テーマが決まっているトークとかはちょっと緊張する。
- ・ ゆっくりテキストチャットでお話して過ごすのが心地よい。
- ・ 父がスタッフとイベントで直接話をしたことがあると言っていたので安心。
- ・ 「相談」となると話しにくいイメージがあるけれど、テーマトークにしちゃえばすんなり口から出そう。
- ・ 人見知りなのでプログラムは少しハードルが高いが、興味がある。

プログラム

- ・ 楽しかった。また参加したい。
- ・ 本が好きなので「みんなで読書をする会」に参加したい。
- ・ ぶっちゃけトークの「実は親に言いたいこと」というテーマが良かった。
- ・ 「実は親に言いたいこと」は、もっとたくさん言いたいことがあるので、また同じテーマで参加したい。
- ・ ぶっちゃけトークの「学校行きたくない」というプログラムが気に入っている。
- ・ いろんなプログラムがあるのでワクワクしている。
- ・ ぶっちゃけトークで自分も話したいと思っていたが、操作が不慣れなのとネットが重く繰り返し落ちてしまうため聞き専になった。
- ・ 「みんなで読書をする会」を実施してみて楽しかったので、来月もまた実施したい。(プログラム発案者)

埼玉県バーチャルユースセンター本番運用概要

活動の状況(相談事業)

【相談エリア】



相談事業 鍵付き相談ブース等

相談件数 28件(相談者数 11人)

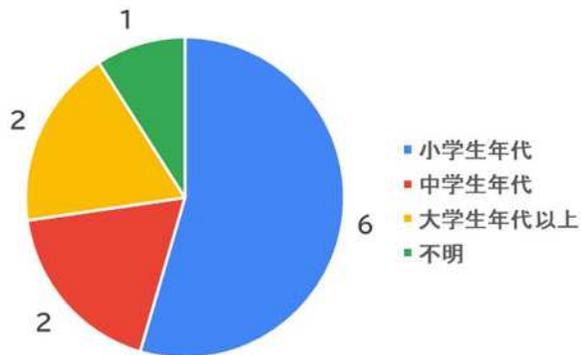
※ 事前予約のほか、交流事業後、個別相談の申し出を受ける場合もあり

日常的な交流
不登校等の悩みをテーマとしたプログラム

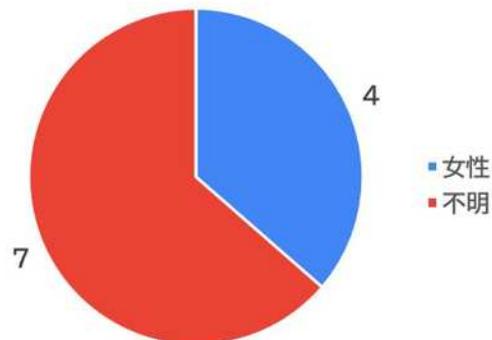
相談しやすい雰囲気醸成に繋がっている

メタバース相談は、非言語情報が制限され関係構築に一定の時間を要するため、**日常的な交流を継続し、信頼関係構築に努めていくことが必要**

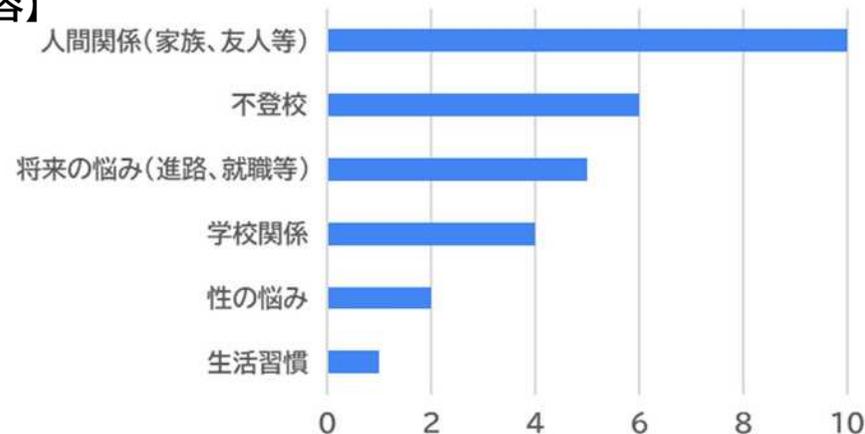
【年齢層】



【性別】



【相談内容】



埼玉県バーチャルユースセンター本番運用概要

他部局連携

福祉部

こどもの居場所フェア埼玉への出展(10月11日)



- こどもの居場所 について 知って、体験できるイベント
- ソニックシティにて開催
- 100名にデモを実施

教育局

教育メタバースの掲示板に案内(10月～)



つながるSAITAMA相談・交流DAYへの出展(12月24日)



- 「バーチャル埼玉」で開催する「誰かとつながりたい」と感じている若者を主な対象としたイベント
- 17名が参加

教育メタバースの利用者にデモを実施(2月予定)



2026年

2月

バーチャルユースセンター (VYC) イベントカレンダー

＼遊びに来てね♪／



バーチャルでつながろう！
こども・若者の居場所

◇開室時間

火曜日 16:00～19:00 (小学生向け)

木曜日 16:00～19:00

日曜日 19:00～21:00

◇開室時間内にプログラムを実施します

開室時間やプログラム内容は都合により変更になる場合があります。

＼私たちが待ってるよ！気軽に話しかけてね～！／



じゅぶりい



ゆきんこ



さっちゃん



きいたん

3 火 17:00～18:00

ぶっちゃけトーク
「実は秘密にしていたこと」

10 火 17:00～18:00

みんなでプログラムを
考える会

17 火 17:00～18:00

謎解き

24 火 17:00～18:00

チャットでできる
ゲームで遊ぼう

5 木 17:00～18:00

もやトーク
「おこづかいのもやもや」

12 木 17:00～18:00

バレンタイントーク
「好きなチョコのお菓子」

19 木 17:00～18:00

謎解き
(上級編)

26 木 17:00～18:00

バーチャル埼玉
ツアーズ

1 日 20:00～21:00

推しトーク
「好きなKPOP」

8 日 20:00～21:00

イバショビルド
(高校生以上対象)

15 日 20:00～21:00

テーマトーク
「あこがれの職業」

22 日 20:00～21:00

推しトーク
「好きなキャラ」



埼玉県バーチャルユースセンター (VYC)